

南洲手抄言志錄 02 南洲言 志錄手抄序

blueskybook

南洲手抄言志録 02 南洲言志録手抄序:秋月 種樹:ブルースカイブックス
南洲手抄言志録 02 南洲言志録手抄序
 秋月 種樹

佐藤一齋ノ言志録凡一千三十四條。行ハル于世ニ。西郷南洲手抄シ其ノ一百餘條ヲ。藏ス于家ニ。余嘗テ遊ビテ鹿兒島ニ而觀ル之ヲ。沙汰精確。旨義簡明。亦可シ以テ窺フ南洲之學識ヲ矣。嗚呼南洲夙ニ抱キ勤王之志ヲ。致シ匪躬之節ヲ。間關崎嶇。死シテ而復タ蘇ル。謀ツテ國ヲ而不謀ラ身ヲ。身益困ジテ而人益信ズ。言志録ニ所謂ハ。我執ツテ公情ヲ以テ行フ公事ヲ。天下無シ不レ服セ。南洲實ニ行セリ之ヲ矣。徳川氏之末造。怠惰成シ風ヲ。志氣衰弱ス。天厭ヒ幕府ヲ。將ニ興サント維新之大業ヲ。南洲能ク率キ大軍ヲ夷ゲ叛亂ヲ。叱※(「口十它」、第3水準1-14-88)一聲。萬軍披靡ス。非ズハ得ルニ士心ヲ豈能ク如ナラシメ是ノ乎。言志録ニ所謂ハ。因テ民義ニ以テ激シ之ヲ。因テ民欲ニ以テ趨カスレ之ヲ。則民忘レテ其ノ生ヲ而致ス其ノ死ヲ。是レ可シ以テ一戦ス也。南洲實ニ行セリ之ヲ矣。夫レ南洲之得人心ヲ。立ツル功業ヲ如シレ彼ノ。而晩節末路如シレ此ノ。可キ惜シム也。此ノ編所レ載スル。毫モ無シ與レ道相背クモノ。後進之徒能ク讀マバレ之ヲ。可キ以テ進ムレ徳ニ也。可キ以テ臨ンデレ死而不レ畏レ也。余嘗テ聞ク。南洲之學術基クト於餘姚ニ。及テ得ルニ此ノ書ヲ。始テ信ゼリ焉。近者余在リ日南ニ。閑散無シレ事。時ニ出シテ此書ヲ評スレ之ヲ。夫レ今古史乘不レ能ハレ無キレ謬リ。如キ頼氏外史ノ。問ヘバ諸ヲ史官ニ。則チ曰ヘリ有リトレ謬リ矣。夫レ名家據リ史傳ニ。引用撰著ス。猶ホ且ツ然リ。況ヤ此ノ評ヲヤ。事實往々取ル諸ヲ傳聞ニ。未ダレ保セ其ノ無キヲレ謬リ也。今將ニ刻セントレ之ヲ。香竹先生爲ニ寫シレ字ヲ。毎ニ一版成ル。訂正シテ及ブ筆意ニ。余悦テ曰ク。吾ガ評不レ足ラ讀ムニ。而其ノ書可シトレ法トス矣。

明治丁亥六月

秋月種樹撰

[南洲手抄言志録 02 南洲言志録手抄序のP1 >| 1/2ページ](#)

南洲手抄言志録 02 南洲言志録手抄序::秋月 種樹::ブルースカイブックス
南洲手抄言志録 02 南洲言志録手抄序
秋月 種樹

底本：「西郷南洲遺訓」岩波文庫、岩波書店

1939（昭和14）年2月2日第1刷発行

1985（昭和60）年2月20日第26刷発行

底本の親本：「南洲手抄言志録」博聞社

1888（明治21）年5月17日発行

初出：「南洲手抄言志録」博聞社

1888（明治21）年5月17日発行

※「「褒」の「保」に代えて「丑」」は「デザイン差」と見て「衰」で入力しました。

入力：田中哲郎

校正：川山隆

2008年7月11日作成

2009年9月1日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、[青空文庫 \(http://www.aozora.gr.jp/\)](http://www.aozora.gr.jp/) で作られました。
。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

●表記について

このファイルは W3C 勧告 XHTML1.1 にそった形式で作成されています。

「くの字点」をのぞく JIS X 0213にある文字は、画像化して埋め込みました。